

新規就農に適した新たな品目および生産体系の確立

○実施期間：令和3～7年度

○担当部署：野菜部

○区分：プロジェクト研究（次世代農畜水産業のデザインプロジェクト）

○研究内容

平成26年度に冬春トマトの新規就農者を育成する就農支援センターが開設され、現在5期生までで20名が就農し成果を上げています。

一方で、岐阜県美濃平坦部の野菜において、新規就農に向けて研修を受けることが可能な品目は、トマトとイチゴの2品目のみです。美濃平坦部で新規就農者を増やすためには、新たな品目での就農支援が必要ですが、トマトとイチゴ以外の品目において新規就農者が就農後早期に高収量を得ることができる技術が確立されておらず、他品目での高収量生産技術の体系化が急務となっています。

そこで、美濃平坦地に産地があり、単価が安定して高収量により経営の安定が期待できる冬春キュウリにおいて、養液栽培による高収量生産技術を確立します。また、キュウリ以外の作目についても、養液栽培での収量性を検討します。

イチゴ

・高設栽培「岐阜県方式」

- ・栽培ベンチに不織布を使用し、少量培地（ヤシガラ）で栽培
- ・給液管理をマニュアル化

トマト

・独立ポット耕栽培

- ・栽培ベンチに不織布製の独立ポットを使用し、少量培地（有機質）で栽培
- ・給液管理をマニュアル化

イチゴ、トマトで開発した養液栽培技術を活用して



新規就農を可能にする高収益を得る
キュウリなどの養液栽培技術を確立する